

フィンテック グローバル株式会社

FGI

FinTech Global Incorporated

*The firm of innovative financing*

<http://www.fgi.co.jp/>

フィンテック グローバル株式会社

本社 〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-1-28  
虎ノ門タワーズオフィス 19F  
Tel. 03-5733-2121 (代表)  
Fax.03-5733-2124

大阪営業所 〒541-0053 大阪府大阪市中央区本町3-5-7  
御堂筋本町ビル11F

証券コード: 8789

第 14 期

中間 事業報告書

2007.10.1~2008.3.31

## 株主の皆様へ

2008年9月中間期における当社グループは、子会社エフエックス・オンライン・ジャパン(株)の業績が好調であったものの、単体及びその他子会社の業績が計画に対して未達となったため、売上高においてはほぼ予想通りに推移しました。しかし、最終的には中間純損失を計上する厳しい結果となりました。

当社グループのコア事業であるストラクチャードファイナンスは、企業の成長に必要な資金調達をオーダーメイドで高度な金融スキームにより実現することが最大の特徴です。しかし損失要因の一つである貸倒引当金を計上した医療機器案件は当社のプリンシパルファイナンスの大原則である「当社のアレンジする案件への自己資金の拠出」「企業成長のための資金供給」から逸脱した結果でした。この点を深く反省する一方で、あくまで価値創造のための金融を追求しなければならない、という点を当社グループの成長過程において改めて確認できたことは非常に重要であったと考えています。

サブプライムローン問題に端を発した金融市場の混乱を背景に、不動産市況が厳しさを増す中、不動産・非不動産両分野で新たなビジネスチャンスも生まれています。下半期においては、すでにこの環境の変化に対応し、リスク管理と営業強化に向けた新たな施策をスタートさせております。株主の皆様には、今後とも一層のご支援ご協力をお願い申し上げます。

2008年6月  
代表取締役社長

玉井 信光



全産業分野をターゲットに、

# FGI

## The Firm of Innovative Financing

FinTechという社名は、FinanceとTechnologyからの造語です。

今後もこの名前に恥じない先進的な「金融技術」を駆使した、より革新的な「証券化」などの金融プロダクツを組成(製造)し続け、クライアントの皆様の信頼に応えるよう努めてまいります。

### フィンテックの事業

顧客企業のニーズ

●  
ストラクチャード  
ファイナンスに特化した  
投資銀行事業

アレンジャー業務  
プリンシパル  
ファイナンス業務

●  
不動産関連  
事業

●  
再保険保証  
事業

●  
エフエックス  
事業

ブティック型の当社ならではの  
専門性の高いオーダーメイドのスキームを構築

FGIが新しい価値を創造します。

### 売上高は予定通りに推移するが 引当金等の発生により増収減益

当社本体がサブプライムローン問題に端を発した世界的な金融市場混乱の長期化等による影響と案件の審査基準の厳格化により当初売上高目標を下回ったものの、**子会社エフエックス・オンライン・ジャパン(株)の好調**により、連結売上高は8,961百万円（前年同期比45.7%増）と**ほぼ期初の計画通り**となりました。しかしながら、医療機器案件にかかわる貸倒引当金1,268百万円の計上に加え、為替差損、有価証券評価損等により、中間純損失415百万円を計上いたしました。

#### 2008年9月期 中間期実績数値(連結) (%は前年同期比)

売上高	経常利益	中間純損失
<b>8,961</b> 百万円 (45.7%増)	<b>1,636</b> 百万円 (32.7%減)	<b>415</b> 百万円 (前年同期は 1,222百万円の利益)

#### 医療機器案件にかかわる 貸倒引当金について

2007年12月20日に当社子会社が出資する任意組合「SP&W・アスクレピオス投資事業組合4号(当社の連結対象)」が医療機関向け機器およびコンサルティングに必要な資金調達のための取組みに2,200百万円を出資しました。しかし償還日である2008年3月21日になっても、契約上の債務者である丸紅株式会社より同組合に資金が償還されませんでした。当社は本件について事件性が強いものと考え、全面的に関係当局の捜査に協力するとともに、最善の債権回収の方法を探っております。

当社は担保として保有する上場株式(2008年3月31日時点の時価は約19億円)について、金融検査マニュアルの自己査定基準を鑑みながらも保守的に時価の概ね半分と評価し、当中間期決算にて当債権に対する1,268百万円の貸倒引当金の繰入れを販売費及び一般管理費に計上いたしました。

### 営業強化と厳格なリスク管理で、 不動産、非不動産の両分野を拡充

当社グループは2008年9月期の重点項目として下記の4テーマを掲げています。その一環として、**2008年4月1日付で組織変更**を行いました。今回の組織変更により、グループ全体の財務情報等の一元管理を行うべく、財務部を管理本部から経営戦略本部に移管したほか、コア事業である**ストラクチャードファイナンスにおける営業体制の強化**、リスク管理および内部統制など一層の**経営管理体制の強化**を図ります。特にリスク管理本部の審査部は投融資案件についての審査に加え、債権の保全および回収の役割も担う重要部署であることから、投資銀行業務の知識・経験が高い人材を配置するなど、体制を強化いたしました。

#### 2008年9月期 重点項目

1. 中身充実のさらなる継続努力
2. 海外も含む新たな資金拠出者の開拓
3. 非不動産業務シフトへの基盤構築
4. 全社的なリスク管理

#### 新組織のポイント：

#### 非不動産分野への取組みと経営管理体制の強化

#### 投資銀行本部

- 人材育成・開発を強化するため、5部体制から8部体制に変更。
- 非不動産業務専門のストラクチャードファイナンス営業第三部を新設。
- ストラクチャードファイナンス営業第一部ならびに第二部を小ユニット化し、ストラクチャードファイナンス営業第四部を新設。
- 資金拠出者の開拓を推進するため、資本市場部を新設。

#### リスク管理本部

- 専任の審査部長および審査役を配置し、より緻密なリスク管理を実現できる体制に変更。

#### 経営戦略本部

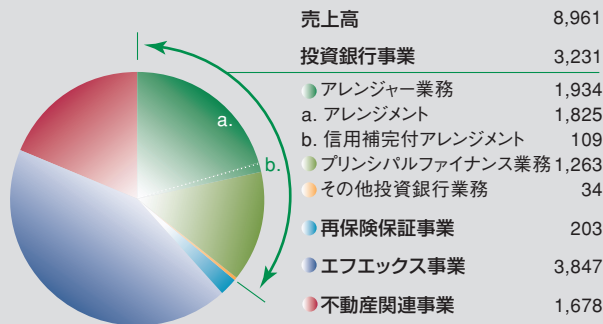
- 管理本部から財務部を移管し、グループ全体の経営計画、業務実績、財務情報の一元管理を行う。

#### 管理本部

- 内部統制の充実とIT戦略の強化に向け、事務企画グループを事務管理部に昇格。

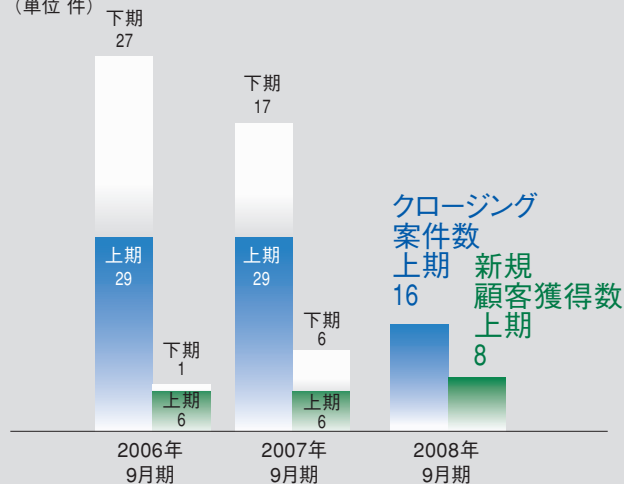
2008年9月上半期 事業部門別売上高

(単位 百万円)



アレンジメント案件数

(単位 件)

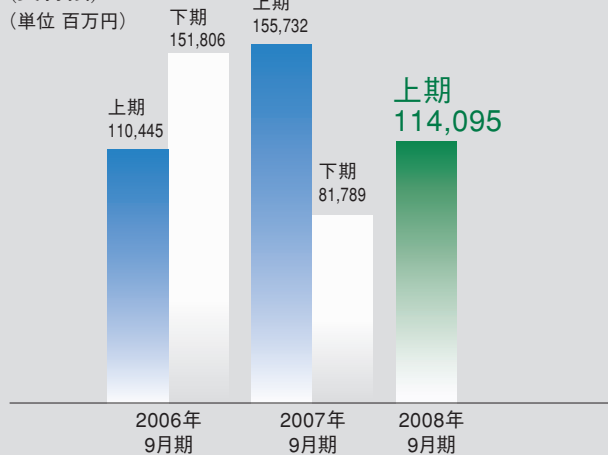


(注) アレンジメント案件数には信用補完付アレンジメント案件数を含みます。新規顧客獲得数は当該期間中に取引を開始した顧客数を示します。なお、クロージング案件数については、共同アレンジ等は除いております。

アレンジメント案件組成実績

(実行額)

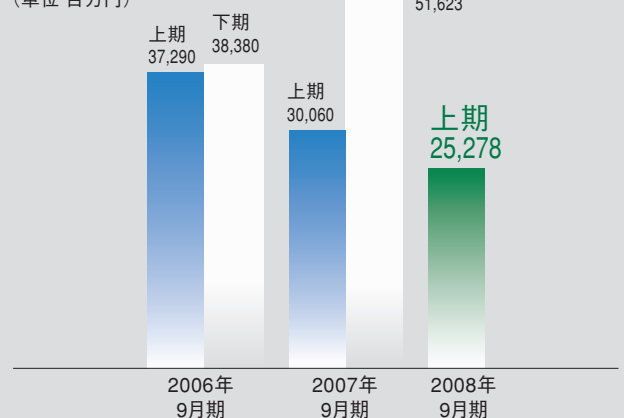
(単位 百万円)



プリンシパルファイナンス

新規実行額(単体)

(単位 百万円)



(注) 1. 当社売上は業務委託契約に基づくアレンジメント手数料(成功報酬)として案件実行時点に計上しています。

2. 信用補完付アレンジメント案件の組成実行高を含みます。

## 投資銀行事業

売上高3,231百万円(前年同期比27.7%減)

### アレンジャー業務

売上高1,934百万円(前年同期比31.2%減)

#### アレンジメント

売上高1,825百万円(前年同期比27.4%減)

ストラクチャードファイナンス案件を実行するための「仕組み」の策定、投資家等プロジェクト参加者の招聘および意見調整、法的・会計的・税務的な視点からの検証等、さまざまな案件を具体化し組成します。

第1四半期中に実行した大型案件の一部の組成が収益に貢献したものの、第2四半期も営業環境は依然として厳しく案件の組成数は15件(信用補完付を除く)に留まりました。

#### 信用補完付アレンジメント

売上高109百万円(前年同期比63.6%減)

当中間期は、Stellar Capital AGの保証案件はなく、当社が保証を付したアレンジメント案件1件(他に共同アレンジメント案件への保証1件)を実行いたしました。

### プリンシパルファイナンス業務

売上高1,263百万円(前年同期比10.7%減)

当中間期は、大型プロジェクトファイナンス案件のストラクチャーの見直しを行った際、子会社が当該案件に対し匿名組合出資(当該出資により連結したSPCの持つ開発用不動産は、たな卸資産として連結貸借対照表に計上)を行った分の匿名組合分配金や匿名組合配当金が得られておらず、通常案件は審査基準を厳格化して投融資を絞ったことから、手数料および金利収入は伸び悩みました。

(注) 同業務は当社自身が資金拠出者(投資家またはレンダー)として、案件に対して投融資(匿名組合出資・メザニンローンなど)を行うもので、当社グループの売上は営業貸付金による金利収入・ローン手数料および匿名組合からの利益配当金となります。

## その他投資銀行業務

売上高34百万円(前年同期比85.8%減)

当業務はアドミニストレーション業務と、フィンテックグローバル証券(株)が、特定投資家層に対するサービスとして、外国籍の私募ファンド等や国内証券化案件に係る私募の取扱いによる媒介手数料の売上を計上しています。

(注) コーポレートローン金利収入について、その他投資銀行業務からプリンシパルファイナンス業務での収益計上に変更しています。

## 再保険保証事業

売上高203百万円(前年同期比75.0%減)

主に(1)信用補完保証業務、(2)再保険業務、(3)滞納家賃保証業務の3業務を行っております。当中間期はStellar Capital AGについては新たな保証引受案件はなく、既存案件の保証に対する期間収益を計上する一方で、当社保証案件による保証売上を計上しております。再保険引受スキームを再構築中であるCrane Reinsurance Limitedは既保険契約分の既経過保険料のみ収益計上しています。

## エフエックス事業

売上高3,847百万円(前年同期比ー)

2007年4月1日より収益を連結決算に取り入れたエフエックス・オンライン・ジャパン(株)が行うインターネット等を使った外国為替証拠金取引事業による売上を計上しています。積極的なマーケティングの実施による顧客の増加および外国為替市場のボラティリティの上昇で積極的に取引されたことにより、2008年1月から3月までは四半期として過去最高の取扱高となりました。

## 不動産関連事業

売上高1,678百万円(前年同期比93.1%増)

子会社のフィンテック リアルエステート(株)が販売用不動産の売却を行ったため、この売却に関して1,604百万円の売上高を計上しています。このほか、不動産の仲介や連結の範囲に含めているSPCの所有する不動産からの賃料収入を売上計上しています。

2008年9月期

# 重点項目

1. 中身充実のさらなる継続努力
2. 海外も含む新たな資金拠出者の開拓
3. 非不動産業務シフトへの基盤構築
4. 全社的なリスク管理

環境の変化に対応しながら、重点項目を着実に推進するべく、下半期において新たな施策をスタートさせております。

## 営業強化

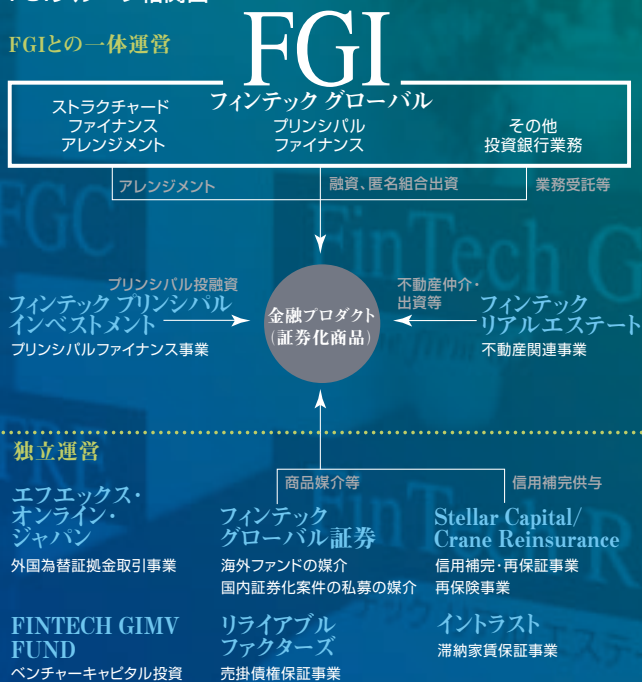
1. 金融環境に左右されない「新たな資金拠出者（海外投資家等）」の開拓
2. 審査体制・営業力強化のために組織を小ユニット化し、人材育成のための体制も強化
3. 非不動産分野に注力する専任部署「ストラクチャードファイナンス営業第三部」を新設。

## 厳格なリスク管理

1. 厳しい環境に対応するべく、債権の保全・回収を強化
2. 専任の審査部長および審査役を設置
3. リスクを軽減しつつ、多様な取組みに対応できる審査体制の強化

FGIグループ関連図

FGIとの一体運営



## より付加価値のあるアレンジメントの提供により、 クライアント事業者を支援

### ●現状の不動産市況の投資家の状況

フィンテック グローバルの**主力プロダクツ**は**開発型不動産証券化アレンジメント**です。しかしながら、サブプライム問題に端を発した世界的な金融市場の混乱の影響などにより、活況を呈してきた不動産市況も、調整局面に入っていると考えられ、不動産投資においては、案件の選別化が進んでおります。この結果、**開発事業者であるクライアントからの引き合いは依然として強いものの**、不動産に対する金融機関の投融資姿勢が保守的であるため、資金調達のアレンジメントの難易度が増し、当社の自己投資についても案件を精査し、絞り込まざるをえない状況であります。

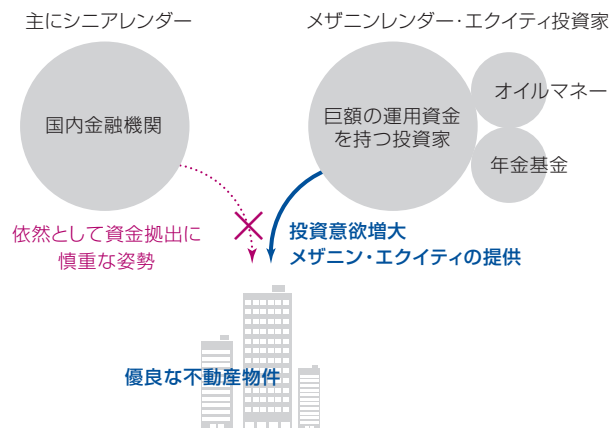
このような厳しい環境の中で、**不動産証券化案件にシニアローンを供給してきた国内金融機関は依然として資金拠出に慎重姿勢を崩して**おりませんが、一方で産油国のオイルマネーや先進国の年金基金などの巨額の運用資金を持つ投資家が、投資先を世界

的に見て比較的割安と考えられている日本の不動産に求めており、エクイティ、メザニンローンの提供を優良な物件に対して行うと考えられます。

### ●下半期に向けた注力分野

左記のような事業環境においてクライアント事業者を支援するため、当社が**海外の投資家とクライアントの間でパイプ役となること**や、**海外投資家と共にファンドを創設**することにより新たな資金調達スキームのアレンジメントを行ったり、**第三者による信用補完を加える**ことによりプロジェクト推進力を強化・補強するなど、より高い付加価値を加えてアレンジメントを行うことで、案件数の増加によるアレンジメント手数料収益の基盤強化および信用力のあるビジネスパートナーとの関係強化を企図してまいります。

## 不動産マーケットの調整局面にあるものの、 一部投資家においては投資意欲が増大



### スキーム

1

### 有力なシニアレンダーがないケース

#### ●当社の役割

資金力のある海外資金拠出者をアレンジすることにより、シニアローンの供給力をアップさせる

### スキーム

2

### 事業者が外部格付等を有さないケース

#### ●当社の役割

信用力のある第三者の信用補完を活用し、良い条件でのファイナンスを組成する

### スキーム

3

### 完成物件購入者をつけるケース

#### ●当社の役割

完成物件の購入者を予め決定することで、より良い条件でファイナンスを組成する

## 全産業分野の資金ニーズに応じてまいります。

### ●成長企業に力を発揮するストラクチャードファイナンス

一般的に企業は信用力以上の資金調達をすることは困難であります。しかしながら、成長力のある新興企業においては、優れたプロジェクトや新規事業を推進するために、銀行与信枠を超えた資金調達が必要となるケースがあります。この資金需要に対応するため、当社は、“プロジェクトのキャッシュ・フローや売掛債権等を担保化”する金融スキームを構築して資金を集めるストラクチャードファイナンスを提案しております。

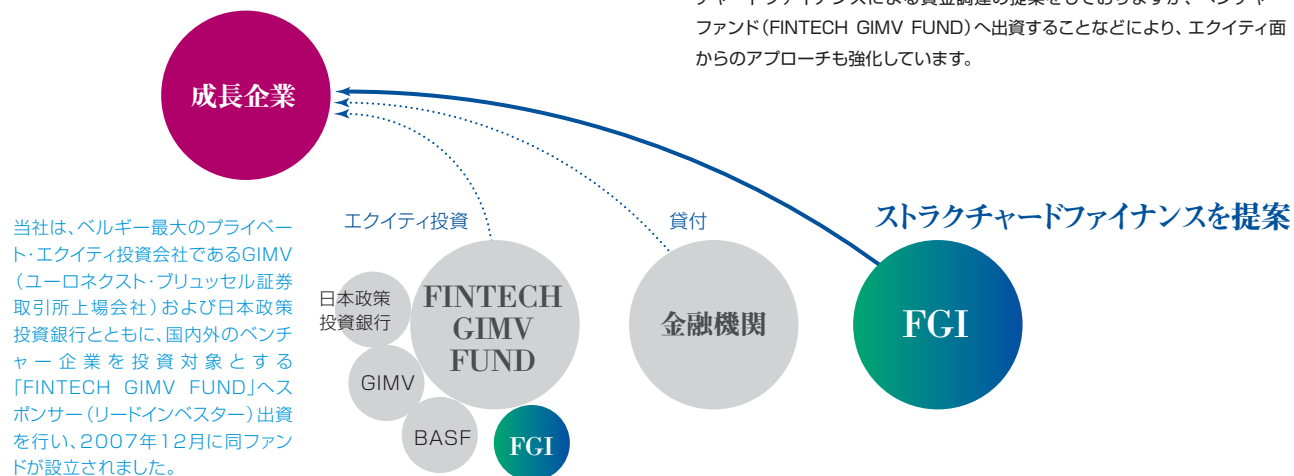
当社はストラクチャードファイナンスが企業の成長戦略を支えるものであり、「全産業にストラクチャードファイナンスの効用を浸透させる」ことが当社グループの使命だと考えています。従って、業種の特定をせず全産業分野における成長性のある上場企業または上場を目指す企業を対象として、営業活動を展開します。

### ●専任部署の新設とグループ会社との連携

2008年4月には**非不動産業務の専門部署としてストラクチャードファイナンス営業第三部を新設**し、積極的に営業活動を行っています。同部においては、国内外の金融機関やベンチャーキャピタル(VC)及びエクイティ投資家(特に出資先へハンズオンして成長を促進させるVC)と協働するとともに、特にグループ会社のフィンテックグローバルキャピタル合同会社と連携し、顧客企業にアプローチしていきます。

また当社は2007年12月に国内外のベンチャー企業を投資対象とするベンチャーキャピタルファンド、“FINTECH GIMV FUND”に出資しております。この出資は、**成長性のある企業に対して、エクイティという面からアプローチをかけていく**ものであり、当社との長期的なシナジー効果を追求してまいります。

## 成長企業の資金調達ニーズへ多角的に対応





## 中間連結財務諸表

### 中間連結貸借対照表

科目	当中間期 (2008年3月31日現在)	前期 (2007年9月30日現在)
<b>(資産の部)</b>		
1▶ 流動資産	99,703,927	82,248,886
固定資産	7,203,040	8,491,587
有形固定資産	302,907	267,825
無形固定資産	5,938,704	6,666,727
投資その他の資産	961,428	1,557,035
資産合計	106,906,968	90,740,474
<b>(負債の部)</b>		
2▶ 流動負債	55,189,076	35,350,755
固定負債	24,565,134	28,198,620
負債合計	79,754,210	63,549,376
<b>(純資産の部)</b>		
株主資本	23,738,172	25,027,828
資本金	10,764,217	10,736,448
資本剰余金	10,351,900	10,351,900
利益剰余金	2,622,054	3,939,480
評価・換算差額等	△69,471	△17,163
その他有価証券評価差額金	△6,250	△17,163
為替換算調整勘定	△63,220	—
新株予約権	11,556	4,974
3▶ 少数株主持分	3,472,499	2,175,458
純資産合計	27,152,757	27,191,098
負債・純資産合計	106,906,968	90,740,474

#### 1▶ 流動資産

大型案件のストラクチャー変更に伴い、不動産を所有している特別目的会社(SPC)に匿名組合出資し、一時的に連結したことから、営業貸付金が14,536百万円の減少、販売用不動産を含むたな卸資産が33,831百万円増加しました。

貸倒引当金につきましては、医療機器案件に係る引当金計上等により、1,308百万円増加しました。

#### 2▶ 流動負債

上記SPCの一時的な連結等により、短期借入金が18,137百万円増加しました。

#### 3▶ 少数株主持分

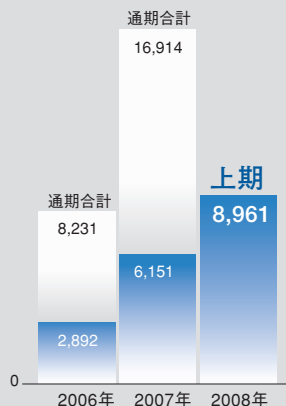
エフエックス・オンライン・ジャパン(株)の純利益の按分およびFINTECH GIMV FUNDの連結等により、少数株主持分が1,297百万円増加しました。

## ●連結財務ハイライト

(各年度10月1日～9月30日)

### 売上高

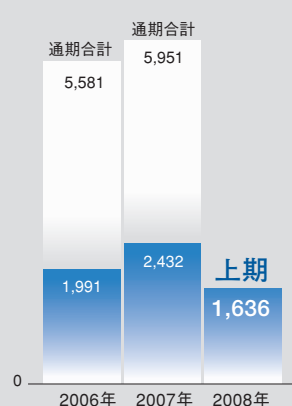
(単位 百万円)



前年同期比 45.7% 増

### 経常利益

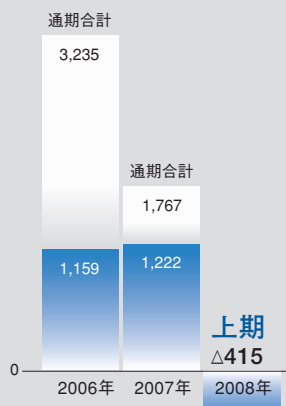
(単位 百万円)



前年同期比 32.7% 減

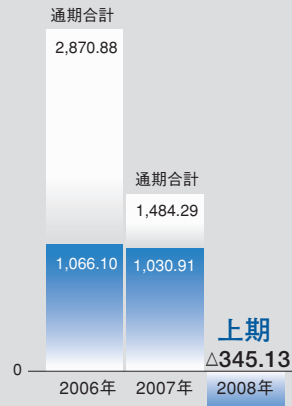
### 当期(中間)純利益(損失)

(単位 百万円)



### 一株当たり当期(中間)純利益(損失)\*

(単位 円)



\*当社は、2006年10月1日付で株式1株につき5株の分割を行っており、当該株式分割に伴った遡及修正を施しております。

## 中間連結損益計算書

科目	当中間期		前中間期	
	(2007年10月1日から 2008年3月31日まで)		(2006年10月1日から 2007年3月31日まで)	
売上高	8,961,842	6,151,674		
売上原価	1,659,474	1,856,676		
売上総利益	7,302,367	4,294,997		
販売費及び一般管理費	4,989,378	1,679,644		
営業利益	2,312,989	2,615,352		
営業外収益	103,015	271,214		
営業外費用	779,942	454,356		
経常利益	1,636,062	2,432,210		
特別利益	-	11,720		
特別損失	187,728	106,588		
匿名組合損益分配前 税金等調整前中間純利益	1,448,333	-		
匿名組合損益分配額	△64,893	-		
税金等調整前中間純利益	1,383,439	2,337,342		
法人税、住民税及び事業税	1,990,917	1,093,978		
法人税等調整額	△947,474	86,479		
少数株主利益又は少数株主損失(△)	755,501	△65,759		
中間純利益又は中間純損失(△)	△415,505	1,222,643		

4▶

## 中間連結キャッシュ・フロー計算書

科目	当中間期		前中間期	
	(2007年10月1日から 2008年3月31日まで)		(2006年10月1日から 2007年3月31日まで)	
営業活動によるキャッシュ・フロー	11,440,666	2,694,931		
投資活動によるキャッシュ・フロー	△11,556,340	△6,346,661		
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,858,839	8,938,231		
現金及び現金同等物に係る換算差額	△84,827	△23,931		
現金及び現金同等物の増減額	△3,059,341	5,262,570		
現金及び現金同等物の期首残高	15,163,735	18,718,675		
新規連結に伴う現金及び現金同等物の 増加額	39,510	3,000		
連結除外に伴う現金及び現金同等物の 減少額	△1,145	△482,457		
現金及び現金同等物の中間期末残高	12,142,758	23,501,789		

### 4▶ 少数株主利益 (△損失)

エフエックス・オンライン・ジャパン(株)の当社持分が45%であるため、同社の純利益1,559百万円の55%である857百万円を少数株主利益として計上しました。

## 中間連結株主資本等変動計算書

科目	株主資本				評価・換算差額等			新株 予約権	少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計			
2007年9月30日残高	10,736,448	10,351,900	3,939,480	25,027,828	△17,163	-	△17,163	4,974	2,175,458	27,191,098
当中間連結会計期間中の変動額										
新株の発行	27,769	-	-	27,769	-	-	-	-	-	27,769
剰余金の配当	-	-	△901,920	△901,920	-	-	-	-	-	△901,920
中間純損失(△)	-	-	△415,505	△415,505	-	-	-	-	-	△415,505
株主資本以外の項目の 当中間連結会計期間中の 変動額(純額)	-	-	-	-	10,913	△63,220	△52,307	6,581	1,297,041	1,251,314
当中間連結会計期間中の変動額合計	27,769	-	△1,317,425	△1,289,655	10,913	△63,220	△52,307	6,581	1,297,041	△38,340
2008年3月31日残高	10,764,217	10,351,900	2,622,054	23,738,172	△6,250	△63,220	△69,471	11,556	3,472,499	27,152,757

## 株式の状況

(2008年3月31日現在)

発行可能株式総数	3,084,000 株
発行済株式の総数	1,207,985 株
株主数	15,271 名

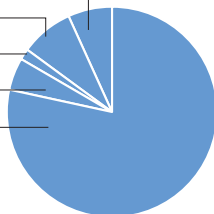
### 大株主(上位10名)

株主名	持株数 (株)	持株比率 (%)
1. 玉井 信光	297,000	24.59
2. 藤井 健	72,015	5.96
3. 青島 正章	57,750	4.78
4. みずほキャピタル株式会社	30,247	2.50
5. 日本生命保険相互会社	17,135	1.42
6. 桶土井 克人	17,006	1.41
7. 株式会社アイエヌコーポレーション	15,000	1.24
8. エヌアイエス セガ インターセトル エージ	14,269	1.18
9. ユービーエス エージー シンガポール	13,000	1.08
10. 井上 晴義	12,750	1.06

### 株式分布状況

#### ●所有者別

その他国内法人	81,891株	(6.78%)
外国法人等	98,286株	(8.14%)
証券会社	20,483株	(1.69%)
金融機関	60,040株	(4.98%)
個人・その他	947,285株	(78.41%)



## 会社概要

(2008年3月31日現在)

### フィンテック グローバル株式会社

設立	1994年12月7日
資本金	107億6,421万7,900円
従業員数	連結136名、単体82名(臨時従業員、派遣社員を除く)
役員	(2008年4月1日現在)
取締役会長	ロバート・ハースト
代表取締役社長	玉井 信光
取締役副社長	野瀬 泰伸
取締役	奥村 幹夫
取締役	大橋 光郎
取締役	杉本 健
常勤監査役	石黒 高興
監査役	大山 亨
監査役	長島 弥吉

## 株主メモ

事業年度	10月1日～翌年9月30日
定時株主総会	12月
基準日	9月30日
中間配当基準日	3月31日
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
(お問い合わせ先)	東京都江東区佐賀一丁目17番7号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 Tel. 0120-288-324 (フリーダイヤル)
同取次所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスタース証券株式会社 本店および全国各支店
公告の方法	電子公告により行います。ただし、やむを得ない事由により電子公告を行うことができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
公告掲載URL	<a href="http://www.fgi.co.jp/japanese/ir/download.html#denshi">http://www.fgi.co.jp/japanese/ir/download.html#denshi</a>



**ロバート・ハースト** 取締役会長

IFC、シティバンク・グループなどでデリバティブ、ストラクチャードファイナンスのプロフェッショナルとして活躍。バンクAIG証券代表を経て、2005年12月当社取締役、2007年12月当社取締役会長就任。



**玉井 信光** 代表取締役社長

オリックスにて航空機ファイナンスをはじめとするストラクチャードファイナンス手法を用いた金融商品の企画販売業務を担当。その後、保険関連事業の策定・展開、リスクファイナンスや保険をベースとしたプロジェクトファイナンスのアレンジ等を手掛ける。新しいインベストメントバンキング形態を目指し、1994年当社を設立。



**野瀬 泰伸** 取締役副社長 経営戦略本部長

大和証券、ドイツ銀行、スイスユニオン銀行等においてストラクチャードファイナンスに携わる。リーマン・ブラザーズ証券東京支店においては、日本人責任者として日本企業向け証券化ビジネスの立ち上げ、各種証券化商品の組成部隊を構築。2005年1月同社マネージング・ディレクター兼グローバルストラクチャードファイナンス日本統括責任者に就任。2005年12月当社取締役、2008年4月当社取締役副社長就任。



**奥村 幹夫** 取締役 投資銀行本部長

損害保険ジャパン(旧安田火災海上保険)にて、営業、ブラジル現地法人役員補佐、米国現地法人の社長室長、本社経営企画部等さまざまな分野にて活躍。2006年4月に当社入社後、事業統括部長、投資銀行副本部長を経て2007年12月当社取締役就任。



**大橋 光郎** 取締役 リスク管理本部長

みずほ信託銀行(旧安田信託銀行)にてニューヨーク支店、海外審査部等を経て、1997年7月同行豪州現地法人社長に就任。2000年4月から同行審査部に転勤、審査部専任部長としてストラクチャードファイナンスの審査を所管。不動産鑑定士。2005年12月当社取締役就任。



**杉本 健** 取締役 管理本部長

日興証券の営業担当を経て、1994年にはeラーニングWebシステムの構築及びその実践学習塾としてアイ・ティ・ブレインネットワークを、2002年にはBtoBのWeb系コンピュータシステム開発・保守・運用を行うプロフォースをそれぞれ設立。この経営手腕をかわれ、2004年6月に当社取締役就任。

●連結子会社

フィンテック グローバル証券株式会社

設立	2004年6月 (2005年10月証券業登録)
資本金	4億6,500万円
事業内容	証券業

フィンテック リアルエステート株式会社

設立	2004年11月
資本金	1,000万円
事業内容	不動産の仲介・販売、不動産への投融資

Stellar Capital AG

設立	2006年3月
資本金	100億円
事業内容	信用補完供与、保証引受

Crane Reinsurance Limited (Stellar Capital AG 子会社)

設立	2006年3月
資本金	15億円
事業内容	再保険引受

株式会社イントラスト

設立	2006年3月
資本金	2億円
事業内容	滞納家賃保証事業

エフエックス・オンライン・ジャパン株式会社

設立	2002年12月
資本金	4億円
事業内容	外国為替証拠金取引事業

リライアブル ファクターズ株式会社

設立	2007年8月
資本金	3億円
事業内容	売掛債権保証事業